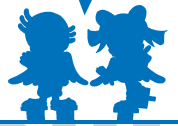


# I 序論

Introduction



Introduction





## はじめに

### 1. 計画策定の意義

豊前市では、平成15年に「人が元気！まちが輝く！豊前から未来への風が吹く」をキャッチフレーズとした第4次豊前市総合計画を策定し、これに基づいて各種施策に取り組んできました。また、平成20年には施策体系の変更や重点施策、目標値の設定を行うなど、中間見直しとして後期基本計画の策定を行い、計画の目標年度である平成24(2012)年を目指してまちづくりを進めてきました。

しかし、この間、本格的な地方分権時代を迎え、さらに少子高齢化や核家族化の進行等による家族や地域コミュニティの変化に伴い、安心、安全な生活の確保や環境保全意識の高まりなど、行政に求められる市民のニーズは多様化の傾向がより強まってきました。一方で、国・地方自治体ともに深刻な財政危機に直面しており、また、民間企業においても依然として厳しい経営状況が続いています。

今後、これまで以上に地域間競争が激化する中、確かなまちづくりを進めていくためには、先人が守り、育んできた自然や歴史・文化などの「魅力」、地域住民の力を活かした「地域力」、行政組織、行政職員のレベルアップによる確かな「行政力」を高め、それらを活かすための新たな視点によるまちの設計図が必要となっています。

そこで、市民と行政が協働しながら、概ね10年後の豊前市のあるべき姿（将来像）を示し、その実現に向けてまちづくりを進めていくための総合的な指針・戦略として、これからの時代を切り開く第5次豊前市総合計画を策定します。

### 2. 計画の位置付け等

- 総合計画は、行政運営の計画書であり、全分野の政策の基本指針となるものですが、総花的・羅列的になるのではなく、事業の優先順位付けや行財政資源の効果的かつ効率的な配分など、中長期的な地域経営の視点を取り入れ、まちの魅力を高めていくものとします。
- 地域のことは地域に住んでいる住民が決められるということが地域主権改革の意義であり、それは住民が安心して暮らせるまちを住民自らがつくるということです。市民と行政が力を合わせ、地域づくりの仕組みを構築するための取り組みなど協働のまちづくりの指針とします。
- 限られた財源の中で、「量」を重視した計画から、「質」を高め既存資源の有効利用などへと発想の転換が必要となっています。この計画では、市民の暮らしに着目し、どのように市民サービスの向上を図っていくか、そのために重要な施策は何かということに、より重点を置いていきます。

### 3. 計画の期間と構成

この計画は、豊前市の目指す将来像及び施策の大綱等を示した「基本構想」と、構想を実現するための施策を体系化し、総合的・計画的な市政運営の指針となる「基本計画」、財政的な裏付けや社会経済情勢を判断しながら、基本計画に示した施策を具体的な事業として定める「実施計画」で構成します。

基本構想は、計画期間を平成25年度から平成34年度の10年間とし、基本計画は、基本構想期間の前期に相当する平成25年度から平成29年度の5年間、実施計画については、3年間のローリング方式で毎年更新することにより実効性の高い計画とします。

#### 計画の期間

平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
基本構想(平成25年度～34年度)									
前期基本計画(平成25年度～29年度)					後期基本計画(平成30年度～34年度)				
実施計画			実施計画			毎年度ローリング			

### 4. 豊前市のこれまでのまちづくりの流れ

豊前市では、これまで第1次総合計画から第4次総合計画に基づき、施策を推進してきました。それぞれの計画と主なできごとは以下の通りです。

#### 第1次豊前市総合計画策定以前

年度	豊前市の主なできごと	国の主なできごと
昭和30年	9ヶ町村合併により豊前市誕生(初代市長 浦野浩氏)	貿易の自由化開始
昭和34年	宇島駅舎落成式	
昭和36年	社会福祉協議会設立/市文化協会設立	日韓基本条約調印
昭和38年	市民会館竣工	
昭和40年	犬ヶ岳のツクシシャクナゲが国の天然記念物に指定	
昭和42年	豊前市消防署開設/消防庁舎落成	



## 第1次豊前市総合計画（昭和46年度～昭和55年度）

### 【基本理念】

新しい産業振興のための基盤整備ならびに住みよい豊かな環境を作るため、限られた財政規模の中で、広域的な観点に立ち長期的な地域発展の方向を見極めて、総合的に、計画的に施策を実施する。

年度	豊前市の主なできごと	国の主なできごと
昭和48年	宇島地先工業用地造成事業竣工	オイルショック
昭和49年	市民憲章制定／市庁舎落成／求菩提資料館落成	
昭和50年	財政再建準用団体申請	新東京国際空港開港 東京サミット
昭和52年	九州電力豊前発電所1号機完成	
昭和53年	求菩提山経塚出土品一括して国の重要文化財に指定	
昭和54年	財政再建準用団体の指定解除	

## 第2次豊前市総合計画（昭和58年度～平成4年度）

### 【基本理念】

4つのふるさとづくり

「自然と調和したふるさとづくり」

「心のふれあうふるさとづくり」

「活力ある産業をもつふるさとづくり」

「教育と文化を誇るふるさとづくり」

### 【将来像】

住みよいふるさと～「恵まれた自然と調和のとれた豊かな田園工業都市」をめざして

年度	豊前市の主なできごと	国の主なできごと
昭和60年	豊前市中国友好訪中団（北京・上海訪問）	日航ジャンボ機墜落事故
昭和61年	ハワイ州知事ジョージ有吉氏帰郷／天地山総合公園完成	男女雇用機会均等法を施行
昭和62年	行政事務の電算化	国鉄分割民営化
平成元年	天地山総合公園「日本の都市公園百選」に選定	平成に改元/消費税導入(3%)
平成2年	市の統一ブランド「ぼくは、豊前『遊、食、自然の里』」決まる ふるさと創生資金「温泉掘削工事」開始	
平成3年	第1回「カラス天狗祭り」開催／豊前市史上・下巻刊行	



### 第3次豊前市総合計画（平成5年度～平成14年度）

#### 【基本理念】

住みよいまち、住みたくなるまちの実現に向けて、市民本位の「ひらかれたまちづくり」を積極的にすすめる。

#### 【将来像】

豊かな文化と活力にみちた緑あふれる産業都市 ～ヒューマンシティ21 in Buzen～

年度	豊前市の主なできごと	国の主なできごと
平成5年	情報公開制度スタート／豊前市斎場操業開始	皇太子殿下、雅子様結婚の儀
平成7年	日本三大神楽まつり	阪神・淡路大震災／地下鉄サリン事件
平成9年	合岩小学校開校／岩屋・郷山・合河・上川底小学校閉校	消費税率5%に改定
平成11年	求菩提温泉「ト仙の郷」オープン	
平成12年	道の駅「豊前おこしかけ」オープン	
平成14年	豊前市バス運行開始	

### 第4次豊前市総合計画（平成15年度～平成24年度）

#### 【基本理念】

官民一体となって、市民一人ひとりがいきいきとして快適に暮らすことのできるまちづくりを目指し、豊前市に「住んでみたい」「住んでいてよかった」「住み続けたい」と思える魅力あるまちの実現に努める。

#### 【将来像】

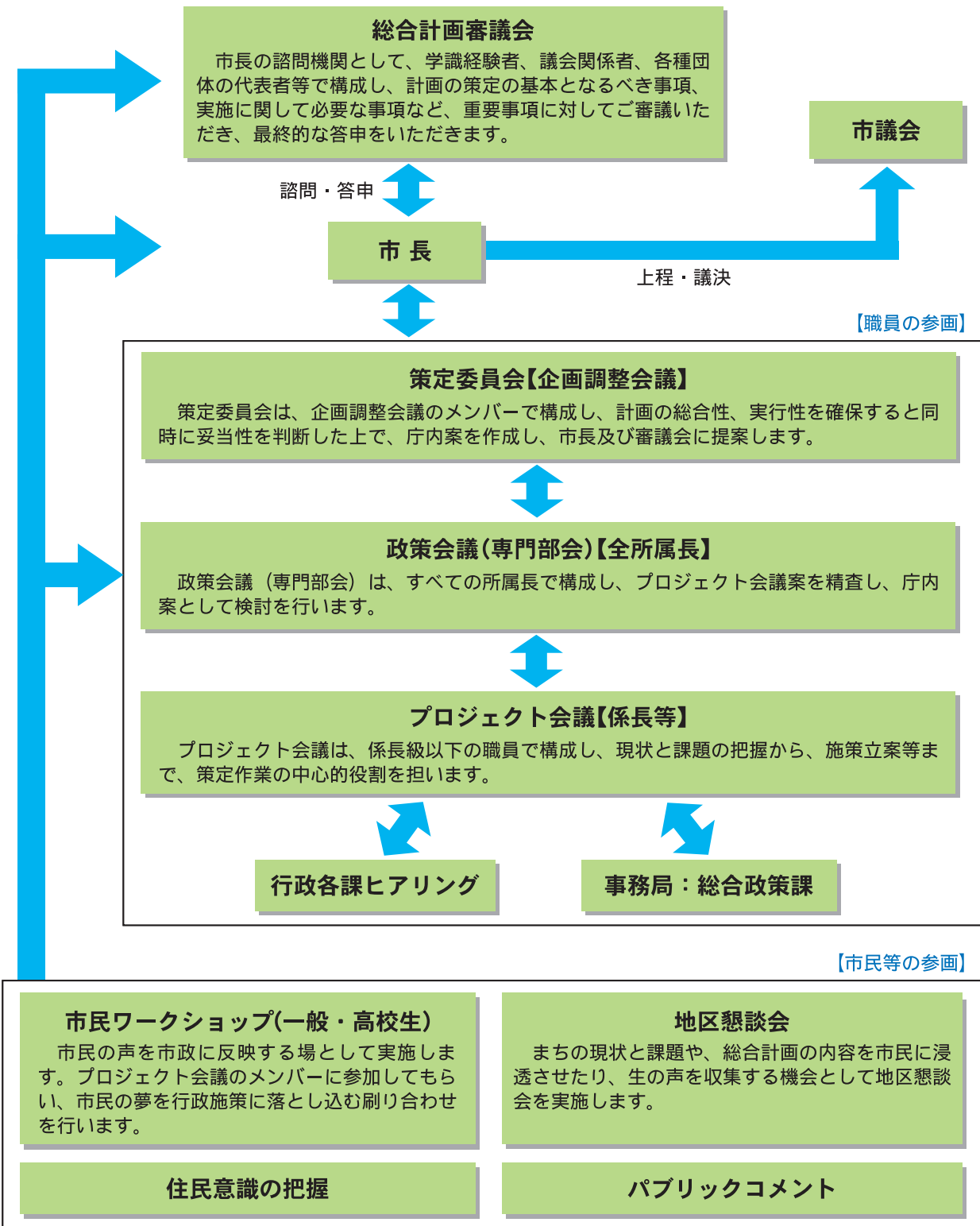
人が元気！まちが輝く！豊前から未来への風が吹く ～クオリティ ぶぜん～

年度	豊前市の主なできごと	国の主なできごと
平成16年	国民文化祭「神楽フェスティバル」開催	
平成17年	豊前市制施行50周年／記念写真集「ぶぜん」発刊	日本国際博覧会（愛知万博）
平成20年	老人ホーム「向陽荘」民営化	
平成22年	男女共同参画推進条例制定	九州南部で口蹄疫の感染広がる
平成23年	固定資産税率が1.6%から1.5%へ	東日本大震災



## 5. 総合計画の策定体制

本計画を策定するにあたり、必要な事項の調整、検討などを行うため、次のような体制で策定作業を進めました。





## 第1章 豊前市の姿

### 1. 豊前市の概要

豊前市は福岡県の東南端に位置し、南に修験道の遺跡で知られる求菩提山、天然記念物「ツクシシャクナゲ」の群生する犬ヶ岳をひかえ、ここに源を発する岩岳川を中心に豊前平野が扇状に開け、北は波静かな周防灘に面しています。

明治22年4月市町村制施行により築上郡角田村、上毛郡内に八屋町ほか8町村が設置されました。そして明治29年には、築城、上毛両郡が合併し、築上郡となり、昭和30年4月には、八屋町（宇島町は昭和10年に八屋町と合併）、角田村、山田村、三毛門村、黒土村、千束村、横武村、合河村、岩屋村の9ヶ町村が合併して今日の豊前市の形がつけられました。発足当初の市の名称は、宇島市でしたが、同年4月14日には豊前市と名称を変更し、今日に至っています。

主要交通網としては、東九州自動車道と国道10号線及びJR日豊本線によって構成される東九州ルートが通り、北九州市とは北西45km、大分県中津市とは南東7kmの位置関係にあり、京築地域南部の中心都市として位置しています。経済的には北九州市と、市民生活や文化面では中津市と深い関係にあります。

一方で、犬ヶ岳、求菩提山を含む耶馬日田英彦山国立公園を中心とした豊かな自然と、国の史跡である「求菩提山」、重要文化的景観としての「求菩提の農村景観」、また県指定無形民俗文化財「豊前岩戸神楽」や「大富神社春季神幸祭(八屋祇園)」などの伝統芸能も多く遺され、これら文化遺産を中心とした地域資源が豊富な地域としても知られています。

気候は、瀬戸内海型気候区に属していますが、その最も西端に位置するために日本海側気候との中間的な性格を持っています。

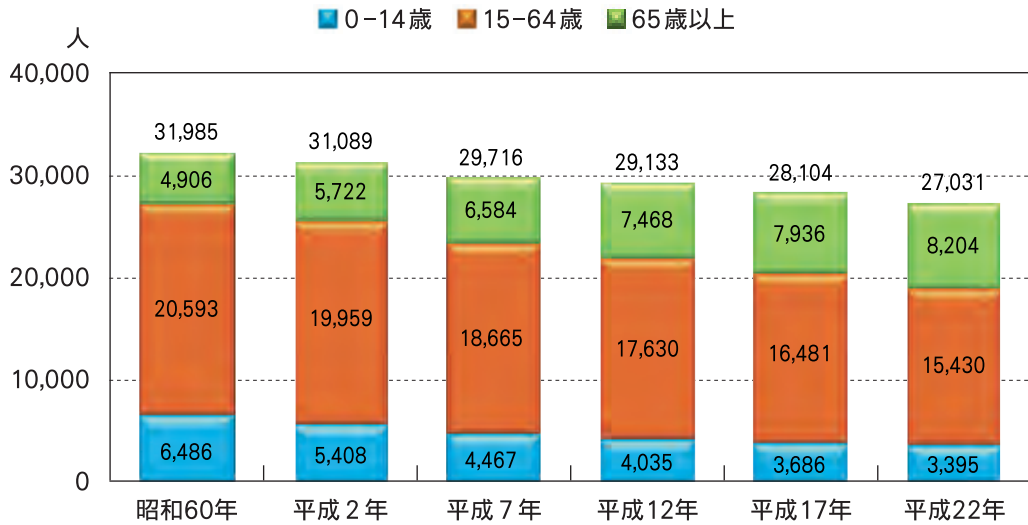
年平均気温は15～16℃、冬季でも5℃程度で日本海型気候と同じですが、年間降水量は1,600mm程度で最も少ない地域に属しています。



## 2. 人口構造

### ① 年齢3区分別人口の推移

総人口は減少を続けており、特に0-14歳（年少人口）が大きく減少し、65歳以上（高齢者人口）が増加しています。

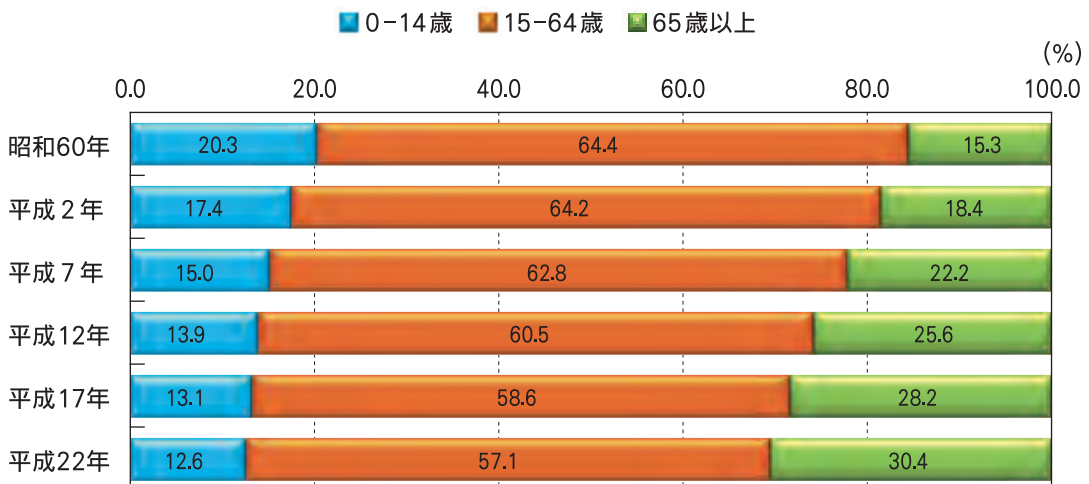


※年齢不詳を含むため、総人口と内訳の合計は一致しない

資料：国勢調査

### ② 年齢3区分別人口構成比の推移

年齢3区分別人口構成比の推移をみると、少子高齢化の傾向が顕著にあらわれており、平成22年では3割以上が高齢者となっています。



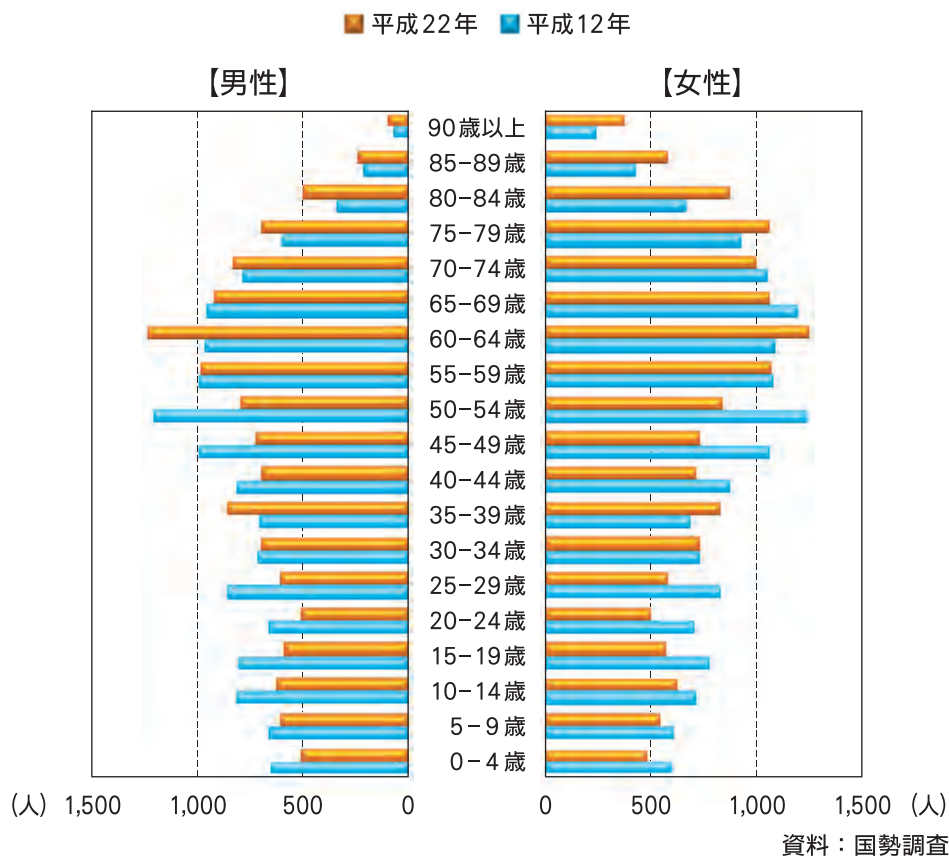
資料：国勢調査





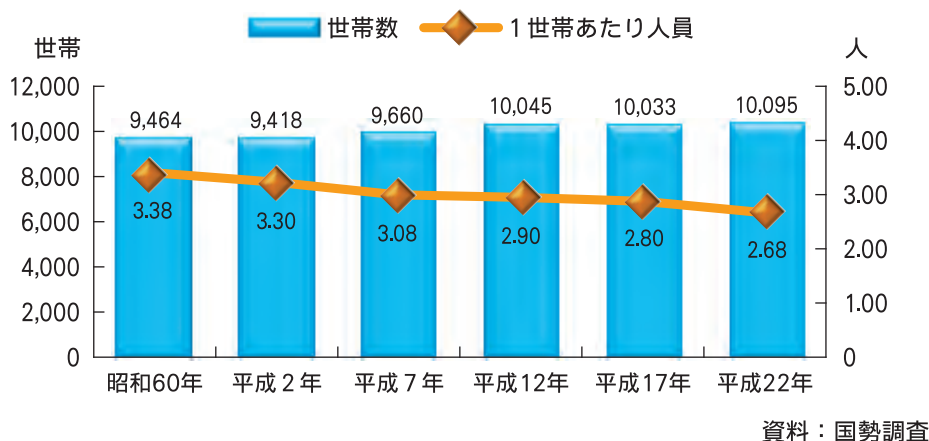
### ③ 人口ピラミッドの推移

人口ピラミッドの推移をみると、平成12年には40代後半から50代だった層が60代を迎えており、今後のさらなる高齢化が懸念されます。



### ④ 世帯状況の推移

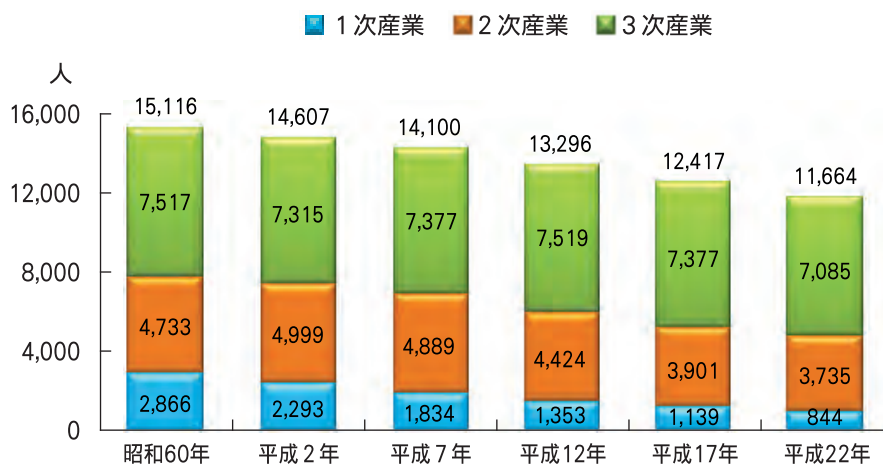
世帯数は増加を続けていますが、1世帯あたり人員は低下しており、平成22年で2.68人となっています。



## 3. 産業構造

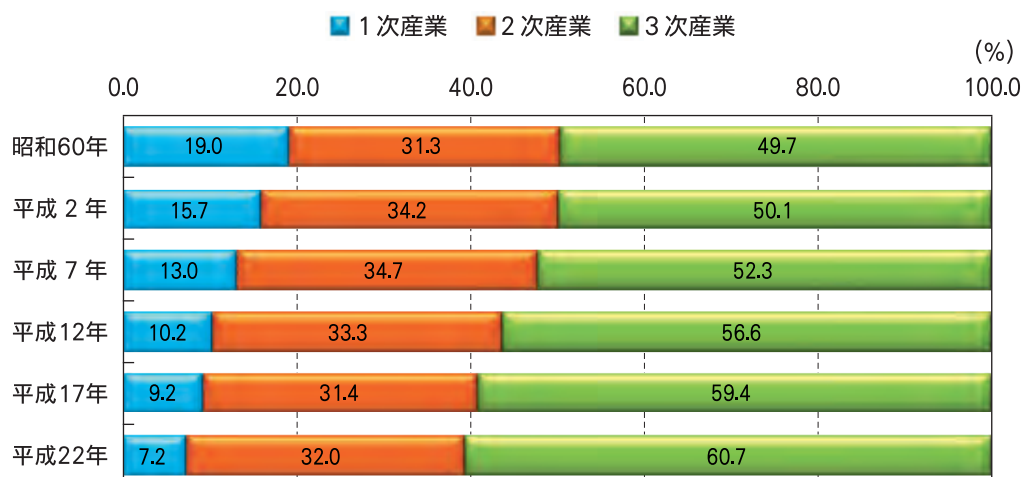
### ① 産業別就業人口の推移

産業別就業人口の推移をみると、減少し続けており、特に1次産業、2次産業の従事者が減少しています。



### ② 産業別就業人口の構成比の推移

1次産業比率が低下しており、平成17年以降は1割を下回っています。

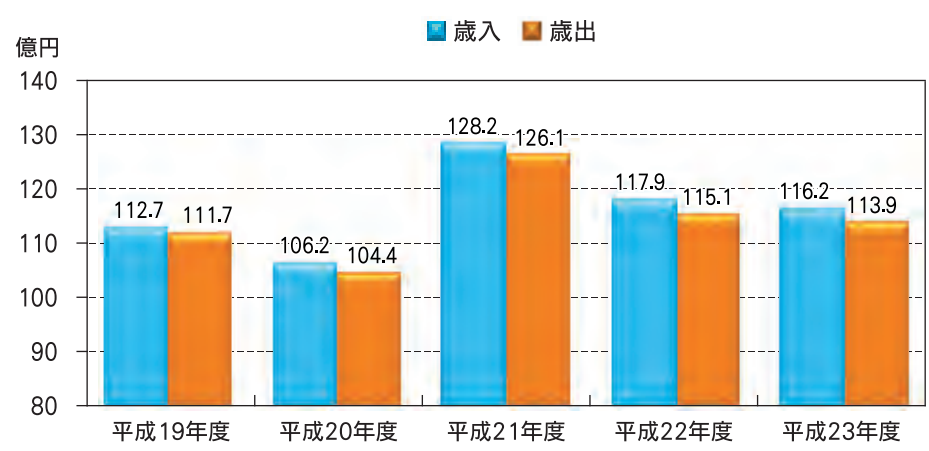


# 4. 財政状況

## ① 歳入・歳出

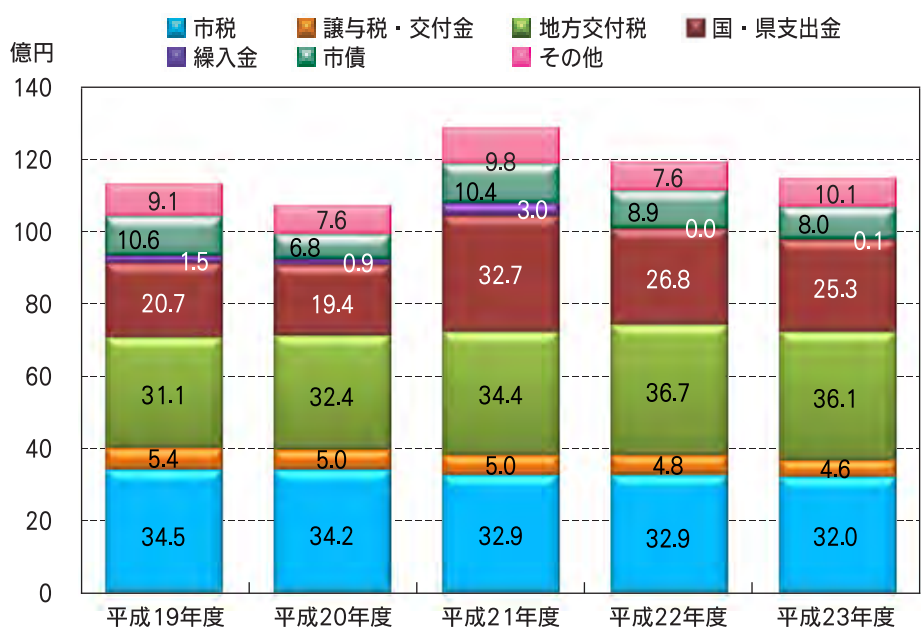
歳入・歳出決算額は、全体では増減を繰り返しながらも横ばいの傾向となっていますが、特に歳入では、国・県支出金の影響を大きく受けている推移となっています。

### 歳入・歳出決算額



資料：豊前市財務課資料

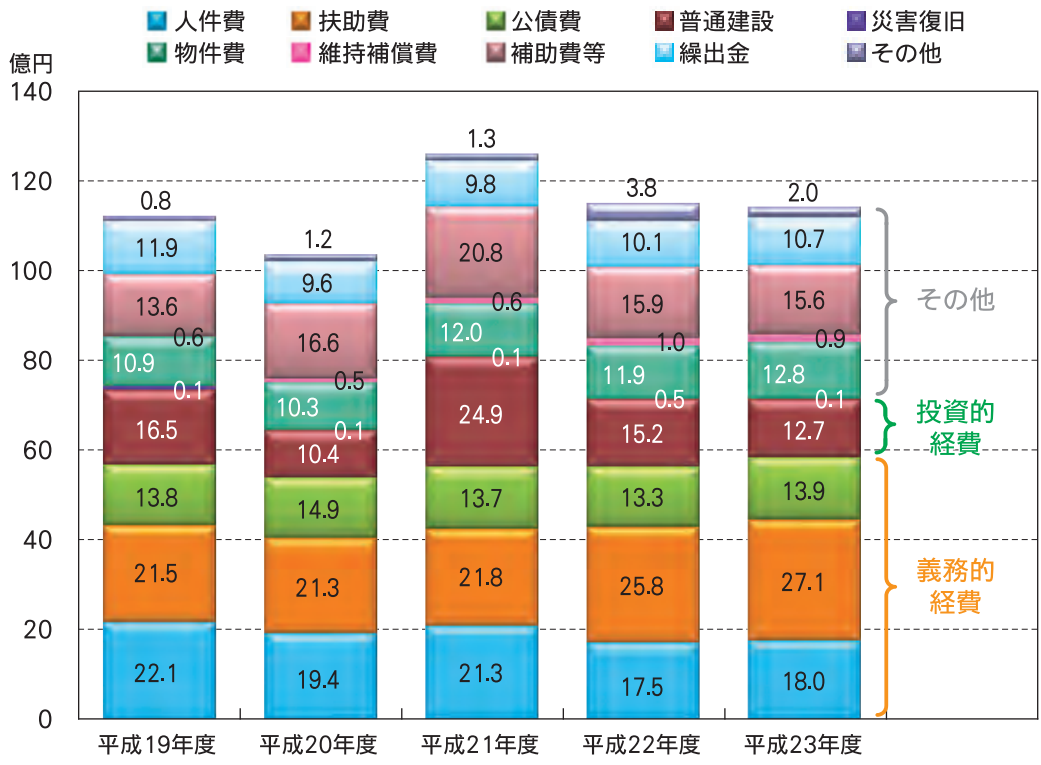
### 歳入決算額内訳



資料：豊前市財務課資料



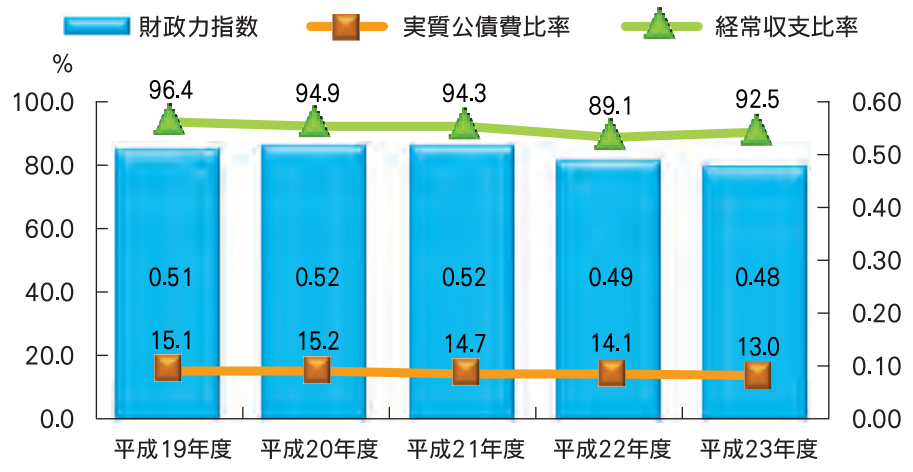
## 歳出決算額内訳



資料：豊前市財務課資料

## ② 財政指標の推移

財政指標の推移をみると、財政力指数は微減傾向、実質公債費比率と経常収支比率は一旦上昇したものの、低下傾向に転じています。



資料：豊前市財務課資料

### 【用語解説】

**財政力指数**：地方公共団体の財政力を示す指数で、この数値が1に近くあるいは1を超えるほど、財源に余裕があるといえます。

**実質公債費比率**：借入金の返済額及びこれに準ずる経費による財政負担の度合いを判断する指標です。

**経常収支比率**：財政構造の弾力性（ゆとり）を判断するための指標です。この数値が高いほど財政構造の硬直化が進んでいます。



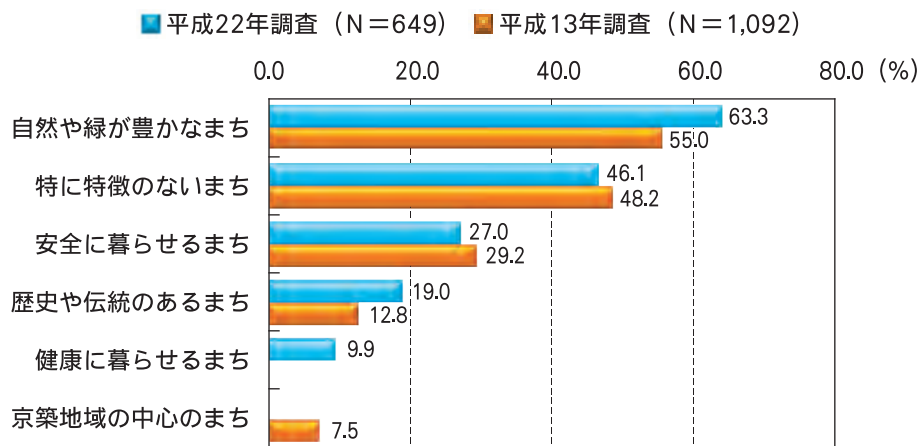
## 第2章 市民の声の把握

### 1.

### 住民意識調査の結果分析

#### ① 豊前市の印象

豊前市の印象について、平成13年調査、平成22年調査ともに「自然や緑が豊かなまち」、「特に特徴のないまち」「安全に暮らせるまち」が上位3件となっています。「自然や緑が豊かなまち」や「歴史や伝統があるまち」の割合が、平成13年調査に比べ、平成22年調査の方が高くなっており、環境や歴史・文化にまちの魅力として価値を見出す人が増加していることがうかがえます。一方で特に特徴のないまちとのイメージが強くその対応が求められています。

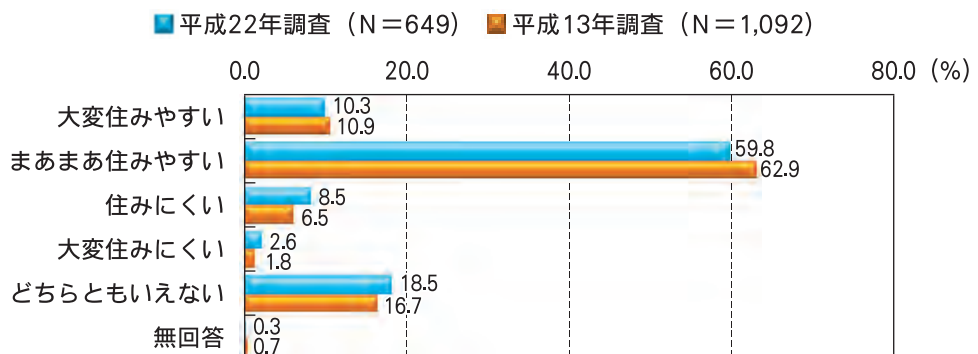


※上位項目のみ表示

注) 平成22年調査・・・豊前市都市計画マスタープラン住民のまちづくりアンケート調査報告書  
平成13年調査・・・第4次豊前市総合計画策定時 住民意向アンケート調査結果報告書

#### ② 豊前市の住みやすさ

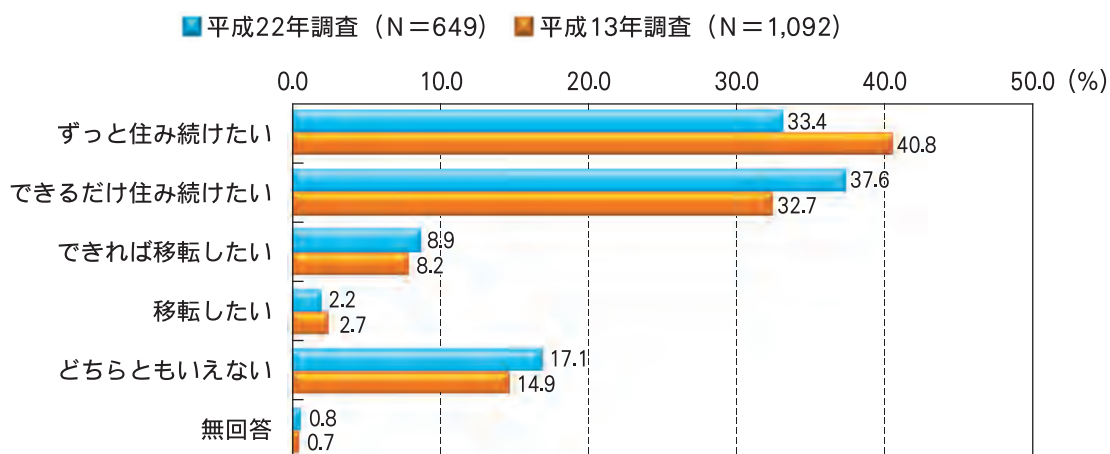
豊前市の住みやすさについて、平成13年調査、平成22年調査ともに「大変住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の合計は約7割となっており、多くの市民が住みやすさを感じていることがうかがえます。





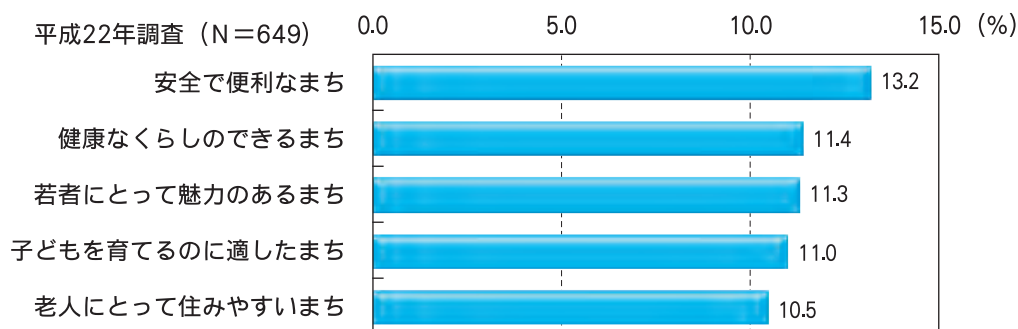
### ③ 豊前市への定住意向

豊前市への定住意向について、平成13年調査、平成22年調査いずれも「ずっと住み続けたい」と「できるだけ住み続けたい」の合計は約7割となっており、多くの市民が住み続けたいと感じていることがうかがえます。



### ④ 希望する豊前市の将来イメージ

希望する将来イメージについて、平成22年調査では「安全で便利なまち」「健康なくらしのできるまち」「若者にとって魅力のあるまち」などが高くなっています。調査項目が異なるため、単純比較はできないものの、平成13年調査では、「福祉」「高齢者」に重点が置かれていたものが、「安全」や「若者」にシフトしていることがうかがえます。



#### 将来イメージの上位項目

	平成22年調査	平成13年調査
1位	安全で便利なまち	福祉の行きとどいたまち
2位	健康なくらしのできるまち	健康なくらしのできるまち
3位	若者にとって魅力のあるまち	老人にとって住みやすいまち

※それぞれの調査で項目は異なっている。

## 2. 市民ワークショップからの意見

市民ワークショップでは3班に分かれ、豊前市の良いところ（チャンス）、悪いところ（課題）をあげ、今後のまちの魅力の向上に向けて取り組む項目について意見を出し合いました。

### 市民ワークショップにおける主な意見

#### 良いところ（チャンス）

- 海も山もあり、自然が豊かである。
- 田舎の方は家が広く作られている。（庭が広い）
- 災害、犯罪、事故などが少なく安全。
- 海の幸 山の幸 おいしいものがたくさんある。
- 地域のつながりが強い。お隣さんの顔がわかる。
- 神楽など伝統芸能が豊かである。
- 高校があり他地域から豊前に通う生徒がいる。
- 子どもが自由に元気にのびのび育つ環境がある。
- 少人数学級が多く、教育が行き届く。
- 北九州市から1時間の場所にある。

#### 悪いところ（課題）

- 豊前を代表する食べ物が少ない。
- 若者が集まりやすいところがない。
- 地元商店街に元気がない。駅前に魅力がない。
- 総合病院など大きい病院がない。
- 人口減少により市全体の活気がない。
- 夜、暗い。（街灯が少ない）
- 働く場所が少ない。→若者が流出。
- 交通の便など高齢者には不便なまち。
- 自発的な住民が少ない。

### 今後目指す方向性

#### < 保健・医療・福祉の充実 >

- 高齢者の生きがいづくりと健康づくり。
- 医療・介護が安心できるまち。
- 障がい者がワンストップで相談、解決できるシステム。
- ランニングコース、遊歩道などが整備されている。

#### < 伝統文化のPR >

- 神楽・祇園を全国に広めたい。（PRと活性化）
- 伝統を重んじる。祭を子どもが楽しむ。

#### < 農林水産業の活性化 >

- 安心・安全なおいしい農産物。
- 海の幸、山の幸を広める。
- 地産地消の推進。
- 農業の後継者対策（企業化など）。
- 地場産業（林業など）へ補助金を。

#### < まちづくり >

- 公園を中心とした買い物ゾーン・病院ゾーン・住居ゾーンの整備。
- 交通の便が良いまち。（特に高齢者のために）
- 松江駅周辺の旧街道らしい古い町並みを活かしたまちづくり。

#### < つながり・交流のあるまち >

- 地域コンシェルジュ\*の設置。
- 定年後の人が戻ってくるようなまち。
- 3世代が暮らしを共有できるまち。
- コミュニティに参加しやすいまち。
- 地域が誇りを持てるまち。

#### < 商工業の活性化・雇用の充実 >

- 企業誘致による若者の定住化。
- 商業施設が充実したまち。

#### < 子育て >

- 子どもが遊べる場所の確保。
- 子育てしやすい、不安のないまち。

#### < 安全・安心 >

- 住んで安心なまち。（防犯・防災）
- バリアフリーなど安全・安心のまちづくり。
- 相談できるネットワークがある。

#### < 教育・文化 >

- 大学や研究機関の設置。
- 美術館がほしい、図書館を魅力的に。
- 趣味を見つけ発表する場のあるまち。

#### < 自然環境保全・景観形成 >

- 自然を守る環境教育を子どもたちから。
- 空家、空地、耕作放棄地の利用促進。
- 豊前市全体を美しく。
- 景観の統一。

#### < 市民参加 >

- 市民の想いが市政に反映していることが公にわかるまちづくり。
- 地域のことを地域住民で議論を積み上げ、それをコーディネートするシステム。
- 若い人も高齢者層も対等な立場で議論のできるシステム。

\*地域コンシェルジュ：観光客に地域の魅力を伝える「案内人」



### 3. 高校生ワークショップからの意見

高校生ワークショップでは2班にわかれ、まちの良いところ・悪いところを踏まえ、自分が市長になったら、将来どんなまちにしたいかについて、自由な意見を交わしていただきました。

#### 高校生ワークショップから出されたまちづくりの公約

##### ・オシャンティな街づくり

**交通機関を充実します!!**

- 駅を使いやすくします
- 歩道を増やして広くします
- 電車の数を増やします
- バスの数を増やします

**人口を増やします!!**

- 小規模な会社を増やします
- 店舗を増やします
- 大学をつくります

**美しい街にします!!**

- 週1回市役所職員でゴミを拾います
- 歩行喫煙を禁止して罰金を取ります

**観光客を増やします!!**

- 豊前のいいところをPRします

**安心安全なまちをつくります!!**

- 小学校の設備を充実させます
- お年寄りを孤独にさせません
- 既存の建物を補強し、大切にします。

**イベントをたくさんします!!**

- 定期的にフリーマーケットを開きます
- 月に1回イベントを開きます

**町の活性化を図ります!!**

- 企業に太陽光発電の設置補助金を出します
- 環境にやさしい企業を誘致します
- イルミネーション設置に補助金を出します

##### ・step and go

**医療機関の充実を図ります!!**

- 大きな病院をつくります

**人に優しいまちをつくります!!**

- ユニバーサルデザインの建物を増やします
- 市役所窓口を土曜の午前中あけます
- 街灯を増やします
- 子育てしやすいまちにします

**特産物の支援をします!!**

- ゆずを増やして活性化させます





## 4. 関係団体調査からの現状と課題

まちづくりを進めていく上で重要な担い手となる市内の各種関係団体（50団体の内35団体から回答）に対し、現状と課題、今後の活動方針等について、調査を行いました。それぞれの分野からみた豊前市を良くするための様々なアイデアをいただきました。

① 自然・歴史・伝統について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美しい自然の恵みや歴史に彩られた史跡が多いことに、自信と誇りを持つ。</li> <li>○“大きな自然災害が少なく、良い環境がたくさんある”と都会の人々にPRする。</li> <li>○求菩提山、犬ヶ岳、温泉施設等の観光資源で特に若者を惹きつける魅力ある情報発信。</li> </ul>
② 農林漁業・商工業・産業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農商工連携により特色ある特産品づくりの推進。</li> <li>○北高跡地周辺の発展に伴い、中心商店街の衰退は目に見えており、商業施設と協働できるような道を切り開く。</li> <li>○自動車産業の地元調達率向上等を目的とした企業育成体制の強化。</li> </ul>
③ ひとづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの自立や環境変化にも対応できるような訓練を行う。</li> <li>○北九州から大分にかけての行政や商工会議所・商工会、大学や研究機関等と連携した人材育成。（産学連携の推進）</li> <li>○継続できるボランティア活動の提案。</li> </ul>
④ 生活環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空き家の有効活用。</li> <li>○買い物弱者とされる方々への対応策の検討。</li> <li>○県道沿線の環境整備のため、花の植栽等を推進する。</li> </ul>
⑤ まちづくり全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過疎・少子高齢化は避けたいが、逆に良い方向と捉え、住民の隅々まで目の届く行政、自然豊かな中で生活できる環境を大切にすることに重点を置く政策。</li> <li>○都市機能の集約、インフラ整備の効率化を目的としたコンパクトシティの実現。</li> <li>○独自性を出すのであれば、小さい自治体のほうが良い。中津市辺りを中心に公共施設の利用や医療環境の共同利用を進めたら良い。</li> </ul>
⑥ 高齢者福祉について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢化社会に向けて、まず高齢者を元気にする。高齢者の講座、教室は行われているが、まだ病院に任せっきりで自分で健康維持ができないのが現状。</li> <li>○高齢者施設に出かけ、歌や踊り、演奏を披露したり、一緒にゲームをしたり交流を行う。核家族化のため、高齢者の優しさに触れることで思いやりやいたわりの心を育む。</li> </ul>
⑦ 児童福祉・教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育所は地域に開かれた児童福祉施設として、豊前市の様々な人や機関などと連携していく。小、中、高校などの生徒の体験学習を受け入れたり、野菜、米作りの食育を通して、地域の交流を深めていく必要がある。</li> <li>○京築地方の保育関係者が一同に介し、連携を密にし、情報を共有し合いながら、より良い保育制度の実現のため、また保育士の資質の向上のための研修を行う。</li> <li>○学校の施設整備、補修にかかる費用をソフト面にあてる必要がある。校数を減らし、市で教員を雇う、外国語教育など、独自のカリキュラムを充実させ、教育関係の予算削減でなく、児童・生徒数を考慮し、前向きな考え方を示す。</li> </ul>
⑧ 障がい者福祉について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○障がいのある子どもの入園時に障がいの内容を把握し、療育機関や医療機関と連携を図り、専門的な対応や知識、技術を学び、情報支援を通じ、保護者と理解を深め、保育を行う。</li> <li>○障がい者が自立しようとする場合、社会経験の少なさから自立して生活する方法がわからないことがある。相談、支援窓口を作り、サービスの活用と合わせ、社会資源の活用を促進するアドバイザーが必要。</li> </ul>
⑨ 市民や行政との協働の取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民のルールと行政のルールには異なる点がある。行政とのかかわりの中で、互いのルールを尊重し理解した上でなければ、協働の成果は得難い。市民と行政のなかたち（中間支援）の役割が果たせればよいと思う。</li> <li>○奉仕活動の充実。（求菩提清掃、道の駅清掃、植樹等）</li> <li>○カラス天狗祭りや、みたと祭り等のイベントでの連携と住民参加の呼びかけ。</li> </ul>



## 5. 地区懇談会からの地域の現状と課題

市民の皆さんから幅広くご意見を伺うため、地区懇談会を開催しました。地域の良いところ悪いところを見直しながら、どのような地域づくりを行っていくか、そのためにしなければいけないことは何か意見をお聞きしました。

### ① 山田・大村地区

- ・一人暮らしの高齢者が増えている。老後をゆっくり過ごすことができる施設の整備を。
- ・大村小学校は小規模特認校になっているが何も無い。財政支援を望む。
- ・山田地区はよそに比べて利便性が良いのに伸び悩んでいる。もっと活性化策を考えてほしい。
- ・自然の景観が随分変わりつつある。
- ・少子高齢化が著しく、地域に活気がない。住民のつながりが希薄になっている。
- ・空き家が多くて危険だ。
- ・バス路線の増設、見直しをしてほしい。

### ② 角田地区

- ・松江の海岸をきれいにしてほしい。
- ・医療機関がないので平日夜間の緊急時が不安。ぜひ医療体制の充実を望む。
- ・松江の駅舎が古くトイレも汚いので海が見える駅として整備してほしい。
- ・角田川の整備をしてほしい。
- ・この地区懇談会をただで終わらせないでほしい。
- ・空き家が増加している。何か対策をしてほしい。
- ・松江駅裏の防潮堤が一部欠落して防災上不安だ。

### ③ 横武・合河・岩屋地区

- ・外灯を増やし、LEDに換えてほしい。
- ・小中一貫校はできないのか。
- ・外灯の切れているところが多くある。点検してほしい。
- ・シカ・イノシシ等が多く農産物への被害が深刻だ。
- ・子どもが少なく集落が衰退していくのが不安だ。
- ・高齢者の一人暮らしが増えている。
- ・若者が勤める企業・就職先がない。

### ④ 宇島・八屋地区

- ・古くなった空き家が台風のと看心配、危険だ。
- ・駅は市の顔である。宇島駅の周辺の色付けがない。
- ・商店街がシャッター通りになって商店街でなくなっている。
- ・小学生の通学路が危険。歩道を作ってほしい。
- ・大雨のときの水害が心配。
- ・後継者不足が深刻だ。
- ・能徳団地からの道路を早く計画してほしい。

### ⑤ 三毛門・千束・黒土地区

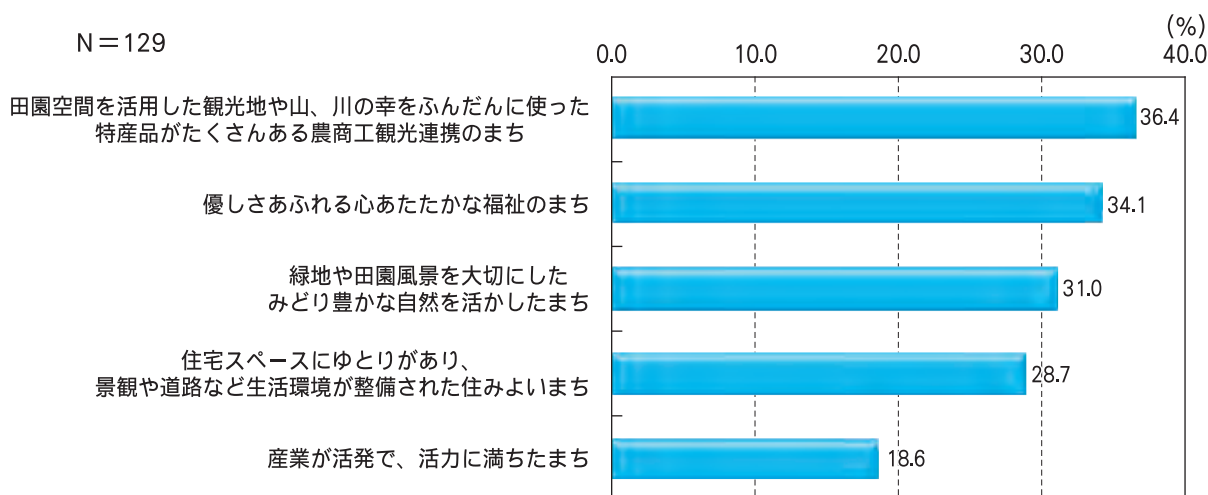
- ・三毛門駅もあり、買い物、病院等にも困らない。利便性がいいのでそこを活かした整備を。
- ・ミニ開発等で耕作放棄地が増えている。荒地になっている。
- ・農地が虫食い状態になっている。計画的な土地利用ができていない。
- ・集落内道路が狭い。火事等災害時が不安だ。
- ・下水道の整備ができていない。
- ・子どもの安全安心な遊び場がない。通学路が危険だ。
- ・中部高校跡地の活用の見直しが必要。

## 6. 職員アンケートからの考察

総合計画の策定にあたり、職員の意識や意見を把握するためアンケート調査を実施しました。

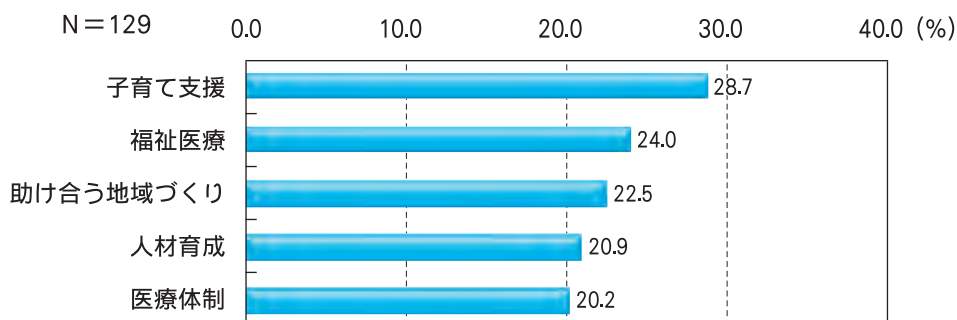
### ① 豊前市を将来どんなまちにしたいか(上位5件)

豊前市が将来どんなまちになることを期待するかについてみると、「田園空間を活用した観光地や山、川の幸をふんだんに使った特産品がたくさんある農商工観光連携のまち」が36.4%と最も高く、次いで「優しさあふれる心あたたかな福祉のまち」が34.1%、「緑地や田園風景を大切にしたりみどり豊かな自然を活かしたまち」が31.0%となっています。



### ② 今後必要だと思うまちづくり施策(上位5件)

今後、特に必要だと思われるまちづくり施策についてみると、「子育て支援」が28.7%と最も高く、次いで「福祉医療」が24.0%、「助け合う地域づくり」が22.5%、「人材育成」が20.9%となっています。





# 第3章 第4次総合計画の評価・検証

## 1.

### 施策実施状況からの評価・検証

#### ① 評価・検証の対象施策について

第4次豊前市総合計画後期基本計画は、5のまちづくりの柱、10のまちづくりの目標、26の目標別基本方針、52の施策区分から構成されており、それぞれに主要施策が位置付けられています。

#### 《まちづくりの目標 1 便利で美しいまち》

土地利用や都市計画、自然環境に関する項目であり、第4次総合計画では都市計画マスタープランに沿ったまちづくりの推進や、道路・交通・公園施設等の整備、自然環境と景観の保全、公害対策などの取り組みを進めてきました。主な成果としては、港湾周辺の交通体系整備として臨海工業線の整備、駅周辺の環境整備として宇島駅自由通路の整備、北側駐車場整備、まちづくりの推進として赤熊南土地区画整理事業、民間活力導入による北高跡地利用、東九州自動車道の整備促進、公園施設や公営住宅の長寿命化修繕計画の策定等を行いました。

今後は、東九州自動車道の供用開始を踏まえ、第5次総合計画や都市計画マスタープランと整合性のある国土利用計画の見直しならびに適切な運用、また、さらなる高齢化の進展が予測される中、買い物弱者対策等の必要性を鑑み、公共交通機関の確保及び充実、コンパクトシティの実現に向けた取り組み等が必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
1 自然と共生した住みよい安全なまちづくり		
まちづくりの目標 1 便利で美しいまち	1 計画的な都市環境の整備	1 都市基盤 (1) 土地利用の総合的調整の推進 (2) 市街地の計画的整備の推進 (3) 都市計画に基づく全市的なまちづくりの推進 (4) 港湾の整備充実 (5) 公園の整備充実 2 交通基盤 (1) 高速交通体系の整備 (2) 計画的な道路網の整備 (3) 道路の改良 (4) 安全安心な道路環境づくりの推進 (5) 公共交通機関の充実
	2 自然環境と美しい景観の保全	3 緑環境 (1) 自然環境の保全 (2) 自然保護意識、環境美化意識の高揚 (3) 環境教育の充実 4 河川環境 (1) 河川環境の整備 (2) 水辺環境の保全意識の高揚 (3) 水資源の確保 5 景観 (1) 美しい景観の保全と創出 6 公害対策 (1) 公害防止の環境づくり (2) 公害防止意識の高揚



## 《まちづくりの目標 2 環境にやさしく安全なまち》

資源循環型社会に向けた取り組みや、上下水道や住宅などの生活環境、交通安全・防犯・防災など安心・安全に関する項目であり、リサイクルセンターの活用や、上下水道の整備・維持管理、公営住宅等の整備、消防・防災施設の充実などの取り組みを進めてきました。主な成果としては、公共下水道整備の推進、合併処理浄化槽の設置推進、家庭用太陽光発電設備導入促進、良好な住環境の整備として薬師寺の区画造成、上町南団地の建替え、防災行政無線の整備等を行いました。今後は、東日本大震災をうけ安心・安全に対するニーズが高まっていることから、豊前市地域防災計画の見直しと防犯・防災に対する取り組みの強化を図っていくこと、また二酸化炭素排出量の軽減を図るため防犯灯のLED化等の取り組み、さらには環境に配慮した地域づくりを推進するため再生可能エネルギーの導入、「生活排水処理基本計画」に沿った水環境の整備等が必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
1 自然と共生した住みよい安全なまちづくり		
まちづくりの目標 2 環境にやさしく 安全なまち	3 資源循環型地域づくりの推進	7 ごみ処理・減量化 (1) 循環型社会の実現 (2) ごみ処理・処分体制の整備充実 (3) ごみの不法投棄の防止
	4 質の高い生活環境の整備	8 上水道 (1) 水道施設の整備と適正な維持管理 (2) 水の有効利用 (3) 水道事業の健全運営 9 下水道 (1) 公共下水道整備の推進及び水洗化率の向上 (2) 農業集落排水施設事業の効率化 (3) 合併処理浄化槽の設置推進 (4) し尿処理体制の整備充実 10 住宅 (1) 公営住宅等の建設・建替えの促進 (2) 質の高い良好な住宅の整備
	5 危機管理と安全・安心の充実	11 交通安全 (1) 交通安全対策の推進 12 防犯・防災・消防・救急 (1) 防犯体制の充実 (2) 消防・防災施設などの充実 (3) 救急救助体制の充実 (4) 災害予防の推進



### 《まちづくりの目標 3 いきいきと働く活力あるまち》

地域ブランド化の推進や、農林水産業、商工業、観光業等の活性化に関する項目であり、ゆずやお茶、豊前海一粒かきや豊前本ガニ等特産品の開発やブランド化の推進、農林水産業の基盤整備、商業施設の活性化や企業誘致等、産業振興の取り組みを進めてきました。主な成果としては、京築広域営農団地農道の整備、認定農業者等担い手や集落営農組織の育成の推進、農地パトロールの実施による耕作放棄地の把握、下刈・間伐等森林整備、水産物直売所や荷捌き場等施設の設置、商店街の環境整備・活性化としてJR宇島駅のエレベーター設置、TMO事業による空き店舗の活用、定住自立圏における広域観光のルート化等を行いました。今後は、まちのにぎわい創出、雇用の確保など、様々な面で重要な分野であることから、観光拠点や地元産品など地域資源を活かした総合的な取り組みや後継者対策、さらには企業誘致による市の活性化などを図っていくことが必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
2 活力たたえ夢あふれるまちづくり		
まちづくりの目標 3 いきいきと働く 活力あるまち	6 地域ブランド化の推進	13 ブランド化 (1) 農林水産業におけるブランド化の促進 (2) 特産品や土産物の開発
	7 農林水産業生産基盤の整備	14 農業 (1) 土地基盤整備の推進と土地利用の効率化 (2) 不耕作地の利活用 (3) 農業生産基盤の整備 (4) 関係機関との交流・連携による農業活性化 (5) 高収益型農業の推進と米・麦・大豆の生産振興 (6) 多様な担い手の育成 (7) 畜産業生産基盤の整備 15 林業 (1) 林業生産基盤の整備 (2) 森林の保全・育成 (3) 林業従事者・組織の育成強化 (4) 計画的な治山 16 水産業 (1) 漁業生産基盤・施設の整備 (2) 在来魚の育成・資源の増殖促進 (3) 漁港周辺環境の向上 (4) 漁業経営体制の強化
	8 商工業の活性化	17 商業 (1) 商店街の環境整備・活性化 (2) 異業種交流 (3) 経営安定化対策の充実 18 工業 (1) 企業誘致の強化と工業適地の整備 (2) 既存企業への支援 (3) 雇用機会の安定確保 (4) 工業用水の安定供給と需要拡大
	9 観光の振興	19 観光 (1) 地域観光資源の整備・活用 (2) 観光振興体制の整備 (3) 観光情報の発信強化 (4) 観光イベントの開催支援



### 《まちづくりの目標 4 医療体制が整ったまち》

各種健康診査や予防対策の推進による健康維持への取り組み、医療体制の充実、社会保障の充実等に関する項目であり、健康診査や健康教室の実施、広域医療体制の構築、国民健康保険事業・国民年金事業の健全化などの取り組みを進めてきました。主な成果としては、運動習慣の普及のためのウォーキングマップ作成、特定健診及びがん検診の実施、感染症予防のための各種予防接種事業、子育て不安の解消のための赤ちゃん全戸訪問、中津市民病院を中心とした広域医療マップの作成、子どもに対する医療費の軽減等を行いました。今後は、生活習慣病の増加、高齢化の進行などから、市民の健康維持に関する取り組みは重要性が増しているため、健康増進教室の充実や、市民の健康づくりができる環境整備などが必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
3 誰もが健康で幸せに暮らせる元気なまちづくり		
まちづくりの目標 4 医療体制が整ったまち	10 地域保健の充実	20 予防 (1) 健康増進対策 (2) 健康診査・予防対策の充実 (3) 健康教育・健康相談の充実 21 母子保健 (1) 子育て不安の解消 (2) 乳幼児の健康保持
	11 地域医療体制の充実	22 医療体制 (1) 健診・健康相談の充実 (2) 広域医療体制の構築
	12 社会保障の充実	23 福祉医療 (1) 老人保健医療・福祉医療 (2) 国民健康保険・国民年金





## 《まちづくりの目標 5 福祉が充実したまち》

高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、地域福祉の充実に関する項目であり、対象者別の公的な福祉施策と地域における助け合い等の住民主体の取り組みを進めてきました。主な成果としては、高齢者保健福祉計画の見直しと介護基盤の整備、配食サービス等各種在宅福祉サービスの実施、独居高齢者の緊急通報装置の設置、障害者自立支援法による各種事業、子育て支援として特別保育など「たけのこ」を中心とした様々な施策の実施、学童保育等保育サービスの充実、すこやか赤ちゃん出産祝い金、愛のネットワーク事業等を行いました。今後は各種福祉制度がめまぐるしく変化していく中で、支援を必要とする人は増加することが予測されるので、福祉施策の充実と合わせ、ボランティアの養成等支える側の人材育成等が必要となっています。また、医療体制の充実を図るため豊築メディカルセンター（仮称）の活用や定住自立圏での広域医療体制の推進が求められています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
<b>3 誰もが健康で幸せに暮らせる元気なまちづくり</b>		
まちづくりの目標 5 福祉が充実したまち	13 高齢者福祉の充実	24 環境づくり (1) 高齢者保健福祉の推進体制 (2) 基盤整備 25 在宅福祉 (1) サポート体制の充実 (2) 地域生活支援の推進 26 生きがい (1) 生きがい対策
	14 障害者福祉の充実	27 ノーマライゼーション (1) ひとづくりの推進 (2) 社会環境の整備 28 地域生活支援 (1) 地域で支えあう体制づくり (2) 在宅サービスの充実 (3) 社会参加支援 29 自立に向けた支援 (1) 地域生活への移行促進 (2) 障害の予防と治療 (3) 教育・育成への支援
	15 児童福祉の充実	30 子育て支援 (1) 保育サービスの充実 (2) 子育て支援サービス 31 地域社会支援 (1) 地域の協力 (2) 子育ての経済的負担の軽減 (3) 母子(父子)家庭への支援
	16 地域福祉の充実	32 助け合う地域づくり (1) 地域福祉推進・支援体制の強化 (2) ボランティアの養成 (3) 関係機関及び地域社会との連携強化
	17 ユニバーサルデザインの導入	33 誰もが利用しやすい施設整備 (1) やさしいまちづくりの推進 (2) 障害者の参画 (3) 民間事業者への協力要請





### 《まちづくりの目標 6 個性豊かな人が育つまち》

学校教育、社会教育の充実、振興に関する項目であり、学校施設の維持・管理、学力向上に向けた取り組み、様々な学習機会の提供、公民館の機能強化などの取り組みを進めてきました。主な成果としては、学校施設の耐震診断の実施と改修、コンピューター教育への対応、小規模特認校制度の導入、ぶぜん自然体験塾による体験学習の推進、公民館の改修等による機能強化等を行いました。今後は将来を担う子どもたちの育成の観点から、学校施設の機能更新、学力向上に向けた取り組みと合わせ、学校規模の適正化を図ることが必要となっています。また、公民館の活性化を通して地域の多様な人材の活用を図ることも求められており、「豊前市生涯学習推進基本計画」の着実な実施が必要となります。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
4 ころ豊かに一人ひとりが輝く生きがいあるまちづくり		
まちづくりの目標 6 個性豊かな人が育つまち	18 学校教育の充実	34 幼児教育 (1) 学校及び地域との連携 35 学校教育 (1) 学校施設の機能更新 (2) 心の問題への対応 (3) 教育指導内容の充実 (4) 学校規模の適正化
	19 社会教育の振興	36 学習活動・機会 (1) 推進体制の強化 (2) 地域との連携 (3) 学習機会の提供 37 社会教育施設 (1) 施設の機能強化

### 《まちづくりの目標 7 生きがいあふれるまち》

生涯学習体制の構築・生涯スポーツの振興、文化財の活用・芸術文化の振興などに関する項目であり、地域スポーツの振興や文化財の保護と利活用等の取り組みを進めてきました。主な成果としては、豊前市生涯学習推進基本計画の策定、出前講座の実施、体育施設の機能更新として市民球場やテニスコートの改修、求菩提山史跡整備の実施、図書館を核とした文化施設の整備等を行いました。今後は、豊前市生涯学習推進基本計画に基づく生涯スポーツの場の確保や指導者の育成、各種文化施設の活用、また文化遺産である神楽等伝承事業への支援、求菩提山を中心とした地域資源を活用した活性化事業等が必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
4 ころ豊かに一人ひとりが輝く生きがいあるまちづくり		
まちづくりの目標 7 生きがいあふれるまち	20 生涯学習・生涯スポーツの振興	38 生涯学習 (1) 生涯学習体制の構築 39 スポーツ活動 (1) 地域スポーツの振興 40 施設の整備 (1) 体育施設の整備
	21 文化財の活用と芸術文化の振興	41 文化財の保存と活用 (1) 史跡「求菩提山」の整備 (2) 文化財の保存・活用による教育普及活動 (3) 伝承事業の展開 (4) 活動団体・ボランティアの支援 42 芸術文化活動 (1) 文化施設の整備 (2) 文化事業の実施・場の提供 (3) 読書活動の推進



### 《まちづくりの目標 8 一人ひとりが輝くまち》

人権の確立に関する項目であり、男女共同参画の推進や各種人権施策の展開、差別の根絶に向けた取り組みを進めてきました。主な成果としては男女共同参画後期行動計画、男女共同参画推進条例の策定、活動拠点として「ハートピアぶぜん」での事業の推進、人権センターの支援を行いました。今後は、これまでの取り組みを踏まえて継続していきながら、推進体制の確立、さらなる施策の推進が必要であるほか、インターネットの普及等による新たな人権侵害を含むあらゆる人権問題について、対応していくことが必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
4 心豊かに一人ひとりが輝く生きがいあるまちづくり		
まちづくりの目標 8 一人ひとりが輝く まち	22 人権の確立	43 男女共同参画の推進 (1) 社会環境づくり (2) 女性の活動支援 (3) 推進体制の整備 (4) 家庭生活と他の活動の両立支援 44 人権施策の展開 (1) 個人の尊重 (2) 総合的な人権問題への対応 (3) 人権教育の充実 45 あらゆる差別の根絶 (1) 差別のない社会への変革

### 《まちづくりの目標 9 市民参加の推進》

住民と行政との協働の推進、情報の共有化等に関する項目であり、様々な市民参加の機会の提供や意識啓発等の取り組みを進めてきました。主な成果としては、広報活動の推進、ワークショップ、地区懇談会等公聴機会の充実、ホームページの充実等を行いました。今後は、多様化・複雑化する住民ニーズ、行政課題に対し、住民と行政のさらなる協働が求められており、その推進役となる人材の育成や地域での組織づくりを含め豊前市らしい協働のあり方を検討していくことが必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
5 構想の推進にあたって		
まちづくりの目標 9 市民参加の推進	23 住民と行政との協働の推進	46 情報の共有化 (1) 広報・公聴活動の充実 (2) 高度情報システムの活用 47 協働 (1) 市民参加の推進



## 《まちづくりの目標 10 行財政運営の改革推進》

効率的・計画的な行財政運営や、財政の健全化、広域行政、職員の意識改革等に関する項目であり、総合計画に基づく行政運営や行財政改革の推進、職員の研修等の取り組みを進めてきました。主な事業としては、総合計画を活用した事務事業評価の導入、九州周防灘地域定住自立圏構想や京築連帯アメニティをはじめとした様々な取り組み、集中改革プラン及び行財政改革推進プランの実施等を行いました。今後は、さらに厳しさを増す財政状況の中で、総合計画に基づいた財政計画のもと、効率的・効果的な行財政運営を進めることが必要となっています。

まちづくりの5つの柱	目標別基本方針	施策区分 主要施策(網掛けは重点施策)
5 構想の推進にあたって		
まちづくりの目標 10 行財政運営の改革 推進	24 効率的・計画的な行財政運営	48 行政システムの改革 (1) 新たなシステムの導入 (2) 行政区の適正化 49 広域行政の推進 (1) 広域協力体制の充実
	25 財政の健全化	50 財政健全化の推進 (1) 財源の確保 (2) 財政運営の効率化 (3) 行財政改革の推進
	26 職員の意識改革と資質向上	51 人材育成 (1) 職員の資質・能力の向上 52 市民へのサービスの向上 (1) 市民の利便性の向上

## ② 評価・検証の全体結果

評価・検証について、233の主要施策レベルで行いました。今後の方向として、159が「継続」、43が「充実」、26が「見直し・改善」、「完了」が5となっています。

### 「今後の方向」全体集計

区分		項目数
1	継続	159
2	充実	43
3	見直し・改善	26
4	完了	5



### ③ 個別評価・検証結果について

#### i) 現状のままこれまでの取り組みを継続する項目

区 分	項目名
継続	下記以外の項目

#### ii) これまでの取り組みからさらに充実を図る項目

区 分	項目名
充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの推進</li> <li>公園の施設充実</li> <li>花と緑のまちづくり事業の推進</li> <li>環境に関する意識啓発</li> <li>排水施設の改築・更新</li> <li>良好な住環境の整備</li> <li>自主防災意識の高揚</li> <li>京築ヒノキブランド化の支援</li> <li>特産品開発の支援</li> <li>土地利用</li> <li>有害鳥獣対策</li> <li>多様な連携による農村環境の維持管理</li> <li>認定農業者の育成</li> <li>新規就農者の育成・確保</li> <li>計画的な治山の推進</li> <li>漁業生産基盤、施設の整備推進</li> <li>商業機能の活性化</li> <li>融資制度の活用、適地への誘導</li> <li>雇用対策の強化</li> <li>介護サポートセンターの整備</li> <li>成年後見制度等の利用支援</li> <li>防災・防犯対策の推進</li> </ul>

#### iii) これまでの取り組みを見直し、改善を図る項目

区 分	項目名
見直し・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土利用計画の適切な運用</li> <li>公共交通機関の充実</li> <li>水資源の確保・活用</li> <li>防災設備の整備</li> <li>防災計画の推進</li> <li>林道・作業道の整備</li> <li>森林の保全・育成</li> <li>異業種の交流推進</li> <li>相談支援</li> <li>地域活動支援センターへの支援</li> <li>日常生活用具給付等の充実</li> <li>入所施設から地域生活への移行促進</li> <li>就労支援</li> </ul>

#### iv) 第4次総合計画で完了した項目

区 分	項目名
完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾周辺の交通体系整備</li> <li>環境美化活動の支援</li> <li>岩岳川河川研究所データの活用</li> </ul>



## 2. 社会経済動向との関連からの課題認識

第4次豊前市総合計画後期基本計画の項目に基づき、社会経済動向と市の状況を課題とチャンスに分けて分析しました。

少子高齢化、人口減少が進む中でのまちづくりのあり方、特に安全・安心の確保や環境保全など、今日的な課題への対応について、地域資源を活かした取り組みが必要であることがあげられています。

本計画の策定においては、豊前市の状況や将来の見通しだけでなく、社会経済全体を踏まえた課題認識とそれに対する施策立案を図り、時代の変化に対応できるまちづくりの推進につなげます。

課 題 (ピンチ)	チャンス
<b>I 自然と共生した住みよい安全なまちづくり</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定年後のスローライフを求める人がいる一方で、自然の良さを知らずに生活の利便性のみを求める人もいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然環境のよさを市内外へPRしていくことで、豊前市の魅力をより一層高めることができます。</li> </ul>
<b>II 活力たたえ夢あふれるまちづくり</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業では後継者の不足や耕作放棄地が多く荒廃地となっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の集団化や法人化の推進により、農業の大規模化を図り労働力の確保、地元の人材活用ができます。</li> </ul>
<b>III 誰もが健康で幸せに暮らせる元気なまちづくり</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が医療機関に行く回数が増えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康指導や、地域での健康教室等地域ぐるみでの健康づくりが期待されます。</li> </ul>
<b>IV こころ豊かに一人ひとりが輝く生きがいあるまちづくり</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 核家族の増加により、コミュニケーション能力の低下、引きこもり等につながる可能性があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な年齢層が集まり、興味のある分野での学びの場の提供を図ることで、子どもや高齢者の引きこもりを防ぎ、異世代間交流を促進させることができます。</li> </ul>
<b>V 構想の推進にあたって</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会に入っていない人の増加等により地域での連帯感がなくなりつつあります。</li> <li>・ ホームページや市報等がありますが、市からのお知らせばかりで市民の意見が反映されにくい状況です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災後、安心・安全への意識が高まっており、地域のつながりを見つめなおすチャンスとなっています。</li> <li>・ 行政と市民の役割を明らかにし、IT技術を利用することで意見や情報を交換し、意識を共有することができます。</li> </ul>

